

LME 責任ある調達

2019年10月

 **LME**
An HKE X Company

SETTING THE GLOBAL STANDARD



目次

1	LMEの計画	3
2	背景情報	4
3	LMEのアプローチの重要点	5
4	LMEブランドに求められる行動	8
5	LMEの継続的なコミットメント	14

1 LMEの計画

LMEは、上場ブランドに対して責任ある調達要件を導入することに注力しています。私たちは過去数年間にわたって、鉱物の責任ある調達に関してさまざまな業界団体と協力してきました。2017年には上場ブランドのすべての生産者を対象に責任ある調達に関する包括的なアンケートを実施したほか、2018年10月には責任ある調達に対するアプローチの提案を発表し、市場から広範なフィードバックを受け取りました。このフィードバックの詳細な分析を受けて、LMEは2019年4月に市場全体を対象に正式な協議を発表しました。そこに寄せられた回答は、LMEがすべての上場ブランドに対する責任ある調達要件を最終的にまとめる上で活かされています。

LMEは、世界の金属業界で特有の地位を占めています。私たちの上場ブランドは、LME契約にどのブランドの金属が納入可能であるか決定します。そして、より広範には、世界中の多くの現物契約において、LMEブランドの納入が必要とされています。このように、LMEは市場のニーズを反映するブランドを特定する上で、金属業界全体にわたって幅広い役割を果たしています。したがって、私たちは金属業界と協力して、上場ブランドがベストプラクティスに対する世界的な期待を具現化することを確保しています。

LMEは、一世紀以上にわたってそのブランドに対する冶金基準のみを規定してきました。LMEがそのアプローチを軽々しく変更することはありませんが、今こそ責任ある調達の原則を採用すべき時期であると私たちは考えています。

私たちは、責任ある調達の領域で主導的な役割を自発的に果たすことによって、この議論に関するあらゆる面の関係者から批判を受ける可能性があることも認識しています。私たちの役割は必然的にさまざまなステークホルダーにおける異論の間にコンセンサスを築くこととなります。もちろん、この役割が人気を博すことは決してありません。しかし、このトピックはLMEにとって緊急を要する課題であり、この議論への積極的な参加が不可欠になっています。金属市場に尽力するというコミットメントに基づき、私たちは自らの役割を果たさなくてはなりません。

2 背景情報

私たちがこのアクションを起こそうとしている本質的な理由には次の3つが挙げられます。

業界としての倫理責任

金属業界は責任ある調達原則を受け入れる倫理的急務を担っていると私たちは考えています。したがって、LMEはそれを促進する上で重要な役割を背負っています。LMEは売り手の市場です。つまり金属の買い手はLMEの上場ブランドの金属の納入を受けている可能性があります。私たちは、責任を持って調達されていない金属が消費者に納入される状況を受け入れることはできません。

商業上の急務

LMEの基本的サービスは金属の価格を設定することであり、その市場の性質から、LME価格は通常上場ブランドにおいて最も低価格のブランドの価格となります。私たちは、LME価格が責任を持って調達された金属の価値を反映するものであり、責任ある調達ではない金属によって人為的に価格が低下しないことを保証するための行動を起こさなくてはなりません。

世界の金属業界をけん引

私たちのステークホルダーはすべて責任ある調達を求めています。これに対して私たちは業界として責任を果たす必要があります。私たちは、責任ある調達に関してLMEが主導的な役割を果たすことを求める要求に耳を傾けてきました。そのような要求は、集中プロセスを促進するためにはLMEが最も効果的であるとの理由から生じているものです。そして、私たちがそうするにあたって、金属市場に関するLMEの知識を活用し、物流上の課題を重視し、同セクターにおける既存の取り組みに基づいて、製造者がそれらの要件を満足するための時間とサポートを提供することが可能です。

私たちはそれらの誘因は全く補足的なものであると考えています。倫理に関する最終決定者は世界中の消費者でなくてはなりません。消費者はますます倫理的信念を擁護し、彼らが購入する製品は責任を持って調達された金属で作られていることを要求するようになってきています。また、金属業界の労働者も、自社の活動に関して強い倫理観を示しています。これらのことを合わせて考えた場合、サプライチェーン全体としての対応が必要であり、責任を持って調達された金属を提供することは、すべての関係者の商業上の関心となっています。



3 LMEのアプローチの重要点

透明性と基準の組み合わせを活用

透明性はLMEの戦略の中核を成すものです。透明性によって消費者はブランドが責任ある調達のために実行しているステップを理解することが可能になり、業界間および業界内での基準適用が一貫性を保つのに役立ちます。同様に、生産者に透明性を要求する場合、透明性が公正に使用されるという生産者からの信頼を確保する必要がありますとLMEは認識しています。特に、透明性を受け入れる生産者は、サプライチェーンのリスクについて、同業他社はそうではないにも関わらず、自分たちがオープンになることによって不利になると感じるべきではありません。さらには、このような透明性を提供することで企業の機密性情報が漏れると感ずることがあってもなりません。透明化される情報は、商業的に不利益となることなく、有意義であり検証可能でなければなりません。そのバランスこそがLME要件の中心です。

同時にLMEは、金属の消費者は、自分たちが消費する製品のサプライチェーンを構成する金属を分析することをたとえ自分自身で選択しなくても、最低限の基準を得る権利があるとも考えています。よって、基準はLMEのシステムの重要な要素であると考えています。また、基準だけでは「グリーンウォッシング」や最低基準を上回った場合のインセンティブの欠如につながる可能性があることをLMEは理解している一方、透明性と基準の組み合わせが消費者を保護するための最適なツールボックスであると考えています。

LMEの要件が、経済協力開発機構(OECD)の紛争地域および高リスク地域からの鉱物の責任あるサプライチェーンのためのデュー・ディリジェンス・ガイダンス(以下「OECDガイダンス」)の主要要件をベースとして、金属の調達地に関わらず、最低基準および透明性を維持することを全ブランドに求めているのは、この理由からです。OECDコンプライアンスを通じて、LME市場はこの二重義務を果たすことになります。

その実現に向けて、またこの目的を達成するモデルは多数あるという認識に基づいて、LMEはブランドが透明性要件を完全に満たしながらコンプライアンスを達成するための軌道となる多くのトラックを用意しています。LMEは、基準と透明性が交差するこの点を細かく監視していきます。それは、その結果得られる透明性が、進歩を推し進めるために、世界的に認められた要件を満たすよう徹底するためです。報告がこれらの要件を満たさないとLMEが判断した場合には、この進歩の継続を目的として、LMEは透明性に関する要求を強める権利を留保します。消費者が追加の取り組みを評価し、肯定的に対応するため、これはブランドが可能な限り倫理的原則を採用する動機となるとLMEは考えます。

大規模採掘と人力小規模採掘を差別しない

どちらの採掘形態にも、異なるリスクおよび課題がありますが、重要性においては等しいことは明らかです。これらを認識する上で、LMEは特定の採掘形態を支持することはありません。むしろ、リスク評価は状況に合わせて調整されなければならないと理解しています。これを受けてLMEは、大規模採掘と人力小規模採掘の両方に対して、等しく有意義な要件の提供に踏み出します。

これはとりわけ2つの領域で重要です。第一に、人力小規模採掘に関連要件を満たす時間を与える際に、LMEは世界的に認められた責任ある調達基準を満たすうえで業界がなすべきことはまだ多い点を認めています。また、その達成のために適切な時間的猶予を許さなければ、LMEは人力小規模採掘で正当に働いている人たちを大規模採掘と比べて不公平に不利益を与えることになるという認識も持っています。

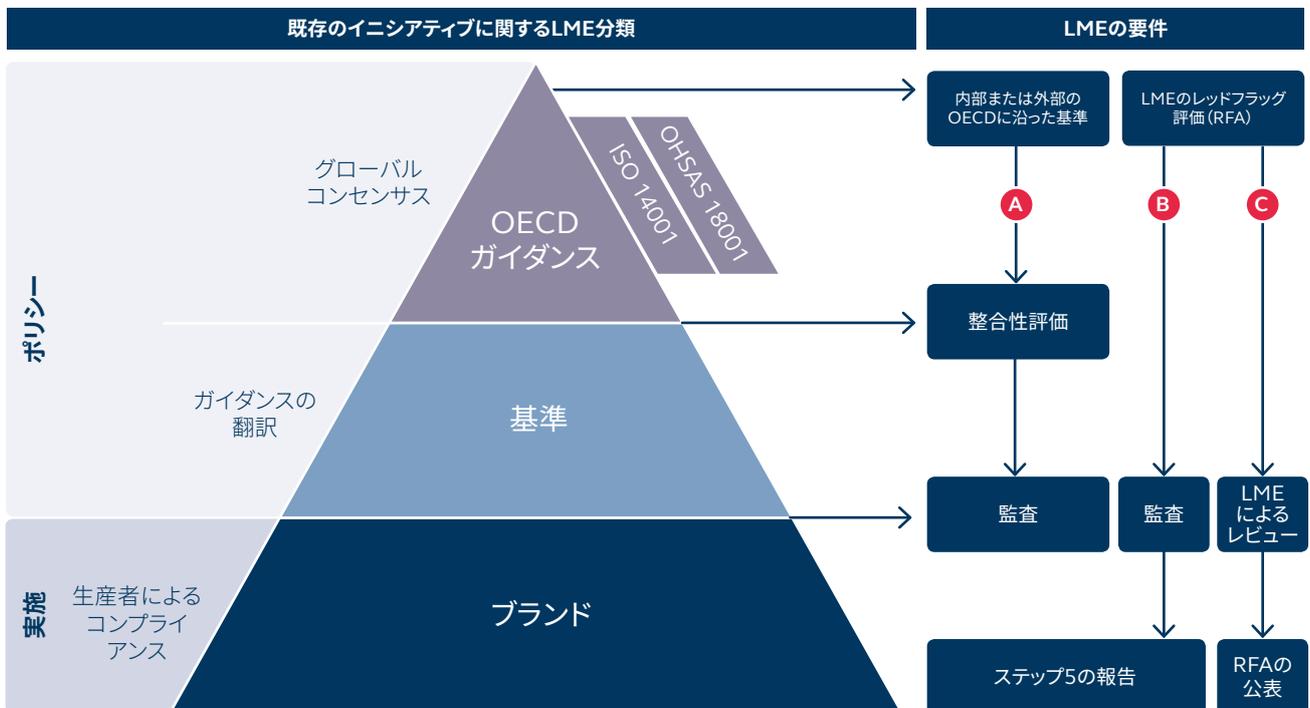
第二に、採取産業透明性イニシアティブ(EITI: Extractive Industries Transparency Initiative)報告を優先する際に、LMEは、大規模採掘が金融犯罪の温床となる可能性があり、その結果透明性が必要となる点を認識しています。

LMEのレッドフラッグ評価 (RFA) テンプレートを利用する生産者が、EITIに基づいて、潜在的な金融犯罪や腐敗リスクの開示を促進しているかどうかについて確認を求められるのはそのためであり、そうすることで、大規模採掘に関する重要な懸念事項の1つに対応しています。何らかの基準を採用する生産者は、(OECDガイダンスに沿った) EITI報告についてその基準の要件を満たすことが義務付けられます。この点が有効に対処されていることを徹底するため、LMEは関連する報告すべての監視を行います。それと合わせて人力小規模採掘リスクに対して十分に確立されたOECDの要件を適用することで、経済的エンパワメントのいかなる経路にも悪影響を及ぼさない公平なバランスを達成したいとLMEは考えています。

セクターでの確固たる実績

責任ある調達領域では、すでに膨大な量の活動が行われています。LMEはそれを基にして、業界がこの投資から利益を得ることができる枠組みを提供することを望んでいます。

具体的には、LMEのアプローチは、責任ある調達に関して世界的に最も関連性の高いOECDガイダンスに根ざしています。これにより、ブランドは既存の基準（業界団体、商業法人などが規定しているもの）を利用することができます。それらの基準は監査アプローチを定めているため、コンプライアンスの評価には最も適切な監査人が配置されます。



最初の段階は、企業管理システムとOECDレッドフラッグプロセスの確立です。これにより、一貫した広く受け入れられているモデルが提供され、特定業務の性質により高いフォーカスが必要となる金属ブランドを識別します。レッドフラッグモデルを使用し、それを選択したブランドに特定のレッドフラッグ評価テンプレートを提供することによって、LMEは、世界のベストプラクティスを受け入れ、さらにはその推進に注力しています。

この点において、LMEは最も価値を付加することができる領域で積極的な役割を果たす意向です。すなわち、レッドフラッグの特定を進めること、そして透明性の原則と基準を根付かせることです。基準の規定と監査については、より適任な機関があるため、LMEが行うことは計画していません。その代わりに、LMEの規則は、基準の規定と監査を一貫して公正に行うことができる枠組みを提供するものです。

実用的で明確なプロセスの打ち出し

このプロセスを活かすためには、世界各地のあらゆる金属の生産者にとって実行可能なアプローチが必要であることをLMEは理解しています。したがって、LMEはその要件が明確で達成可能であることを徹底しなくてはなりません。上記のとおり、LMEは、上場ブランドがOECDコンプライアンスを達成できる多数のルートを詳しく紹介しています。これらは既存の作業を有効活用し、リスクと選好の両方に基づいた選択肢に加えて、責任ある調達に初めて取り組む生産者向けに明確で実用的な枠組みを提供することを目的としています。

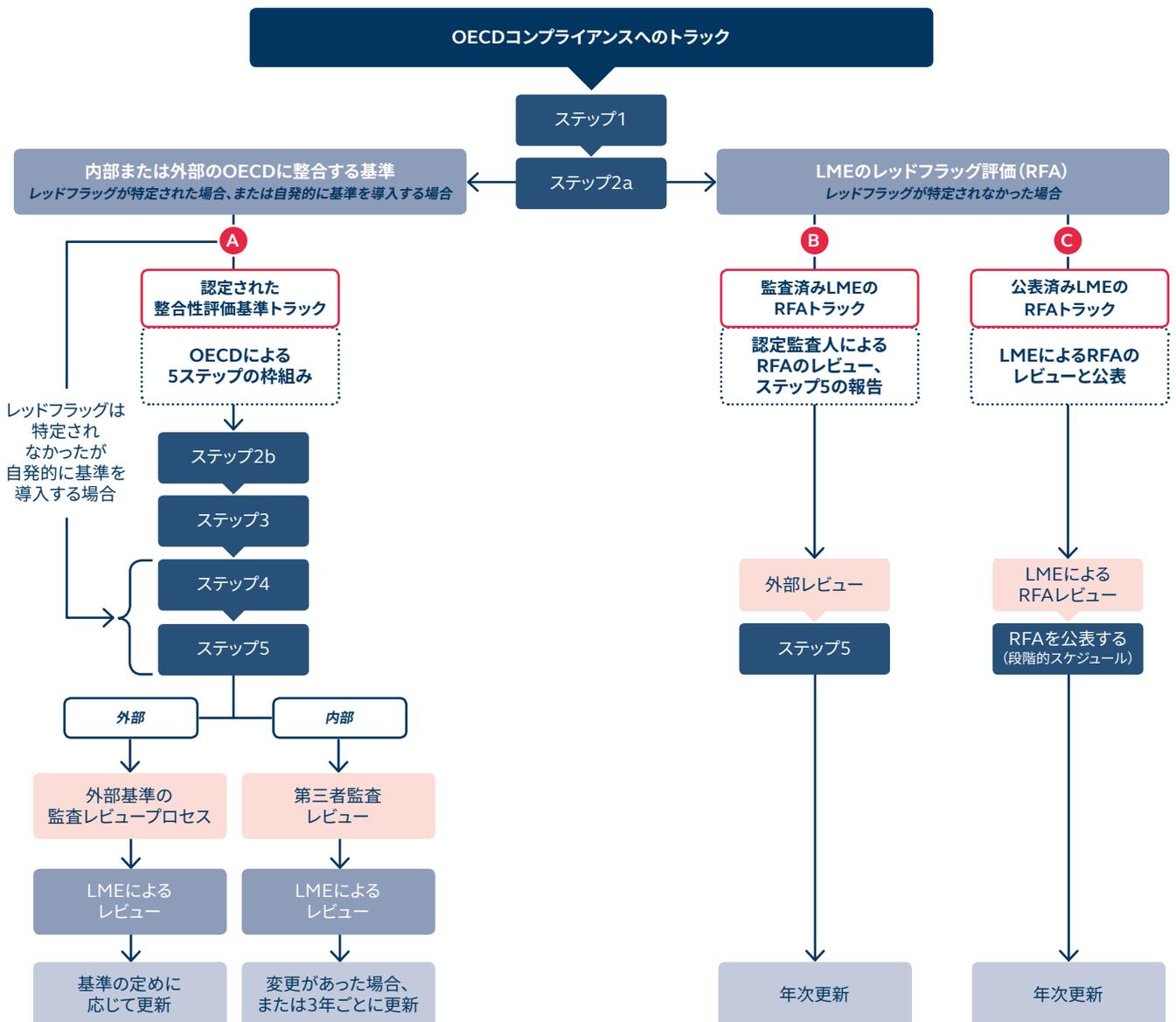


4 LMEブランドに求められる行動

LMEの責任ある調達要件を満たす方法を選ぶブランドの意志決定プロセスには多くの要因が絡んでくることを私たちは理解しており、そのことを選択の可能性を提供することで尊重したいと考えています。そこで、LMEはブランドがOECDに対する完全なコンプライアンスを達成できるトラックA・B・Cという3つのルートを用意しました。それ

ぞれのルートでは、責任ある調達に向けた具体的で有効な行動について明確なプロセスとスケジュールが示されています。各トラックでは、サプライチェーンリスクの総合評価、そして市場に対する透明性が必要となります。

これら3つのトラックを以下で簡潔にまとめます。



各ブランドは以下のステージの完了が求められます。

ステージ1 – ステップ1(企業管理システムの構築) およびステップ2a(サプライチェーンリスクの特定) を完了する

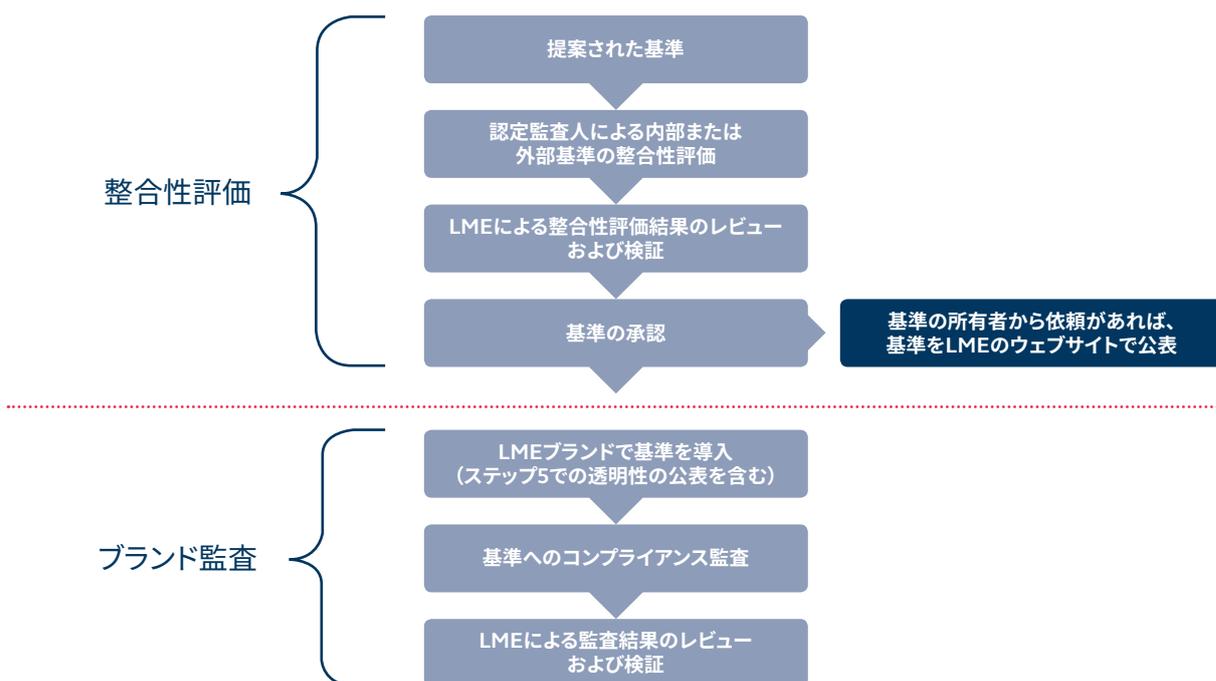
ステージ2 – コンプライアンスに向けた適切なトラックを見つけて、以下に示される各トラックでのステップに従う

ステージ3 – ISO 14001およびOHSAS 18001(または同等の認定プログラム) 認定を取得する

トラックA

(次のいずれかの場合：(i) レッドフラッグが特定されている、(ii) レッドフラッグは特定されていないが関連するOECDの5ステップのコンプライアンスを実証する基準を採用したい、(iii) 自発的に5ステップ全部を完了したい)

1. 採用する基準を決定する – 内部または外部基準が利用可能
2. 基準がOECD整合性評価を受けたことを確認する
3. 基準への初期コンプライアンスを実証する – 基準は詳しい監査の要件を指定します
4. 基準への継続的コンプライアンスを実証する

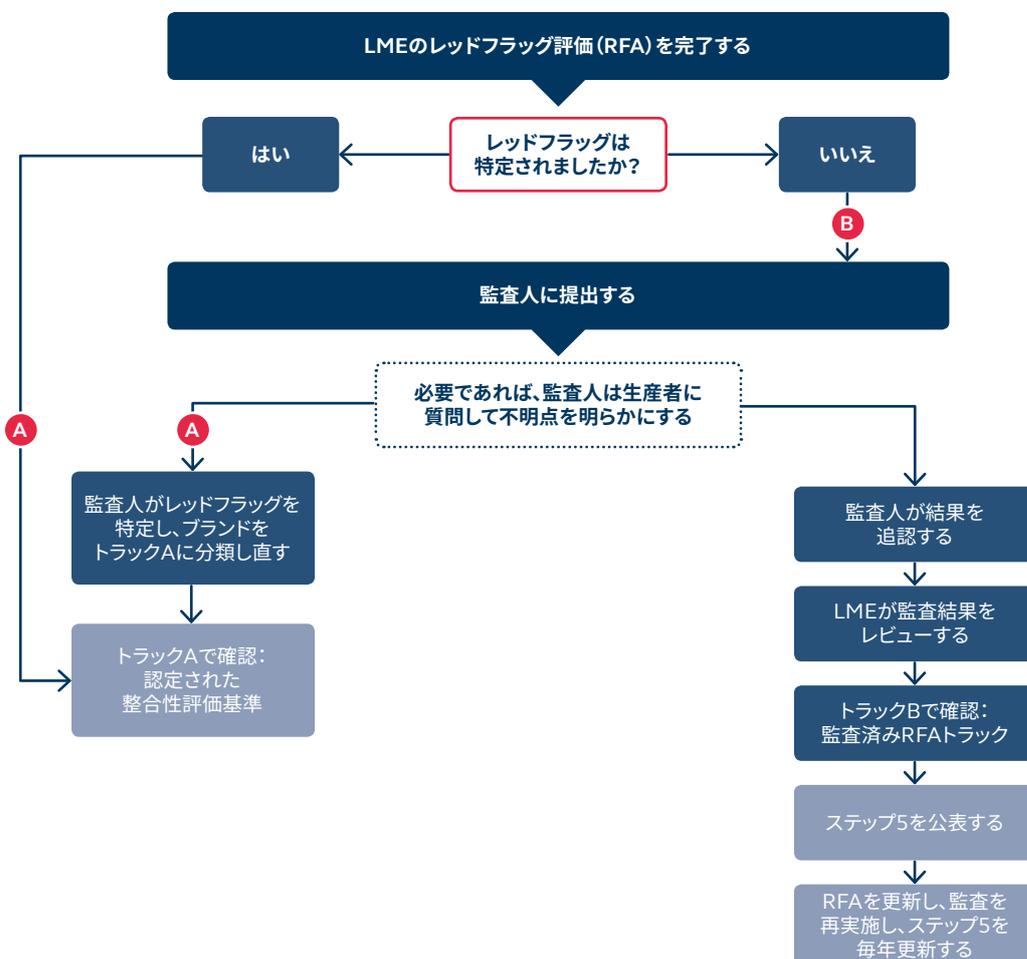


- ガイダンスまたは基準に重要な変更があれば、整合性評価を再実施します
- 整合性の監査人は、整合性評価を行ってから最低2年は基準の監査を行うことは許されません
- 基準機関の規定に従い監査プロセスを繰り返します(内部基準の場合は最低でも3年ごと)

トラックB

(レッドフラッグを特定せず、基準の利用を望まず、独立監査人による独自レッドフラッグ評価の監査を希望する場合)

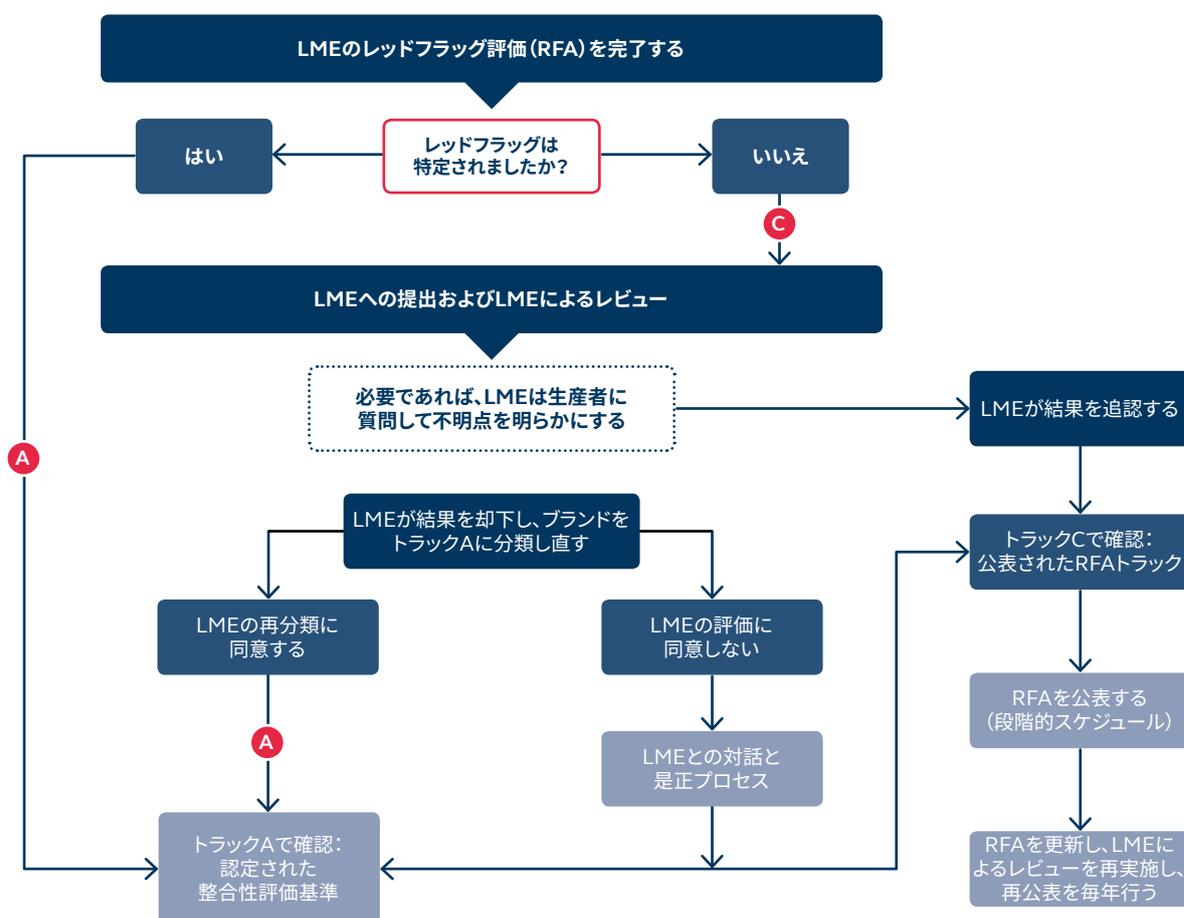
1. LMEのレッドフラッグ評価テンプレートを完了する – レッドフラッグが特定された場合にはトラックAに戻ります
2. 独立第三者監査人を任命し、レッドフラッグ評価を検証してもらおう – LMEは認定監査人のリストを維持し、公表します
3. 関連サプライチェーンにはレッドフラッグがないことを監査人が確認する
4. 監査結果をレビューのためにLMEに提出する
5. LMEは結果を追認し、OECDガイダンスのステップ5に従って公開を求める
6. RFAを毎年更新する



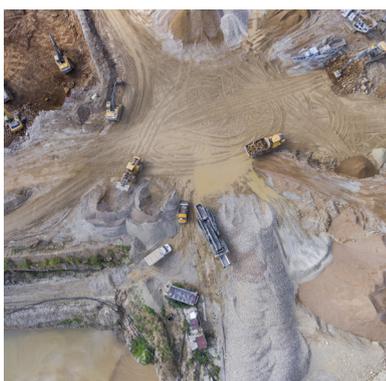
トラックC

(レッドフラッグを特定せず、基準の利用を望まず、独自レッドフラッグ評価の監査を希望せず、そのまま公表を選択する場合)

1. LMEのレッドフラッグ評価テンプレートを完了する – レッドフラッグが特定された場合にはトラックAに戻ります
2. レビューのためLMEにレッドフラッグ評価を提出する – 初回レビュー後にLMEが生産者に質問する必要がある可能性があります
3. LMEがRFAを確認する
4. RFAの公表 – RFAの公表については段階的アプローチを採用しており、概要は次ページの表で示します
5. RFAを毎年更新する



公表日	RFA結果	
2022年12月31日	Y1	要約統計
2023年12月31日	Y2	要約統計
2024年12月31日	Y3	匿名バージョン
2025年12月31日	Y4	匿名バージョン
2026年12月31日	Y5以降	属性バージョン



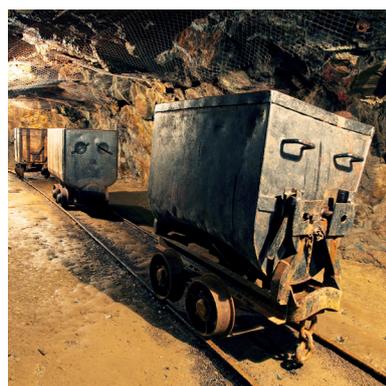
すべてのブランドにわたって平等な競争環境を確保するという私たちの願い、そして実用主義に対する私たちのコミットメントから、すべてのブランドに対して必要な基準を達成するのに十分な時間を提供することが重要です。私たちは、業界のフィードバックに対応し、コンプライアンスにコミットしているすべての参加者にそれを達成するための時間があることを確実にします。これは小規模事業者にとってとりわけ重要です。小規模事業者は大規模事業者と同じ法務およびコンプライアンスのインフラストラクチャーを利用できないことを私たちは認識しています。

アクション	OECDコンプライアンスへのトラック		
	A：認定された整合性評価基準トラック	B：監査済みLMEのRFAトラック	C：公表済みLMEのRFAトラック
最初の報告期間	該当なし (報告期間は基準の定めによる)	2021年1月1日～ 2021年12月31日 備考：初年の報告期間は、生産者のアニュアルレポートに合わせて短縮が可能です(2021年1月1日から2021年3月31日までを報告期間とするなど)	2021年1月1日～ 2021年12月31日
最初の報告日	2022年6月30日 トラックAのブランドおよび提案された基準の確認を提出する	2022年6月30日 監査結果を提出する	2022年6月30日 RFAテンプレートを提出する
基準は整合性評価済みの認定基準として受け入れを予定	2022年12月31日	該当なし	該当なし
基準に対するブランドの監査完了を予定	2023年12月31日	該当なし	該当なし
透明性	基準の定めによる	2022年12月31日 ステップ5の報告	2022年+2023年12月31日－ 要約統計 2024年+2025年12月31日－ 匿名レポート 2026年12月31日以降－ 属性レポート
更新の頻度	基準の定めによる	RFAを毎年更新 (監査およびステップ5の報告に基づく)	RFAを毎年更新 (LMEによるレビューおよび公表に基づく)
ISO 14001、OHSAS／ISO 45001 (または同等の認定プログラム) 認定取得	2023年12月31日 (認定プログラムはこの日までに同等の認定プログラムとして受け入れを予定) (そして認定プログラムに記載のスケジュールに基づいて更新)		

5 LMEの継続的なコミットメント

私たちの責任ある調達アクションは、ブランドのコンプライアンスを監督し、枠組みがステークホルダーの期待と完全に整合した状態を維持するためのLMEによる多大な投資を表しています。これには、ルールセットをさらに進化させ、グローバルな金属調達倫理に関してますます進化する社会の期待に適応するための、市場との継続的な対話も含まれています。

私たちは、私たちの市場を代表して、責任ある調達問題の影響を受けている採掘コミュニティの労働条件とエンパワーメントの機会を向上するため、実体的な金銭的支援を行うことを望んでいます。したがって、私たちの取引市場で課された罰金からの収益の大部分をセクター内の慈善事業に割り当てることを決め、初期的に200万米ドルを割り当てることでLMEボードの承認を得ました。そうすることを通して、そして私たちの責任ある調達要件と並行して、世界中のサプライチェーンを支える人々の生活に金属取引コミュニティが直接的かつ前向きな影響を与えることができると信じています。







© The London Metal Exchange (the "LME"), 2019. ロンドン金属取引所のロゴは、ロンドン金属取引所の登録商標です。

無断複写・転載を禁じます。本書に含まれるすべての情報（以下「本情報」）は、あくまで参考情報として提供されているものです。LMEは本情報の正確性、信頼性、完全性を確保するよう努めていますが、目的を問わず、本情報の正確性、完全性、信頼性、適正に関し、LMEもその関連会社も、明示または黙示を問わず、保証や表明は一切行いません。本情報中の誤りまたは欠落、あるいは本情報に基づく、または依拠するいかなる結果、決定、行動または不履行から生じるいかなる損失または損害についても、LMEは一切の責任を負いません。

本情報は、投資決定を行うための投資アドバイス、解説、または推奨とみなすものではなく、またはそのようにみなすことを意図するものではありません。LMEが情報の提供先である人物を代行することはありません。本情報を受け取る人はLMEの顧客ではなく、したがって、LMEはそのような人に対して規制上あるいはその他の保護を提供する責任を負いません。本情報を受け取るすべての人は、本情報に基づいて決定を行う前に、独立した投資、法律、税およびその他の関連するアドバイスを得ることをお勧めします。

米国の外国先物およびオプション顧客に提供または販売できるLME契約は、米商品先物取引委員会（CFTC：Commodity Futures Trading Commission）に登録されている会社、またはCFTC規則30.10に従ってLMEでの取引に関し米国先物およびオプション顧客からの資金の募集および受領を許可されている会社に限定されています。

本情報と「LME上場ブランドの責任ある調達に関するLMEポリシー」（以下「本ポリシー」）との間に相反または矛盾がある場合には、本ポリシーが優先します。本情報の受領者は、LMEのウェブサイト上で本ポリシーの詳細情報を確認してください。

THE LONDON METAL EXCHANGE (ロンドン金属取引所)
10 Finsbury Square, London EC2A 1AJ (英国) | Tel +44 (0)20 7113 8888